

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
15106001	グリーン関数 S T M の開発とそれによる ナノ電子輸送ダイナミクスの研究	長谷川 修司（東京大学・大学院 理学系研究科・准教授）	A
初期目標および 17, 18 年度の実施計画にも出ているグリーン関数評価はチャレンジングなテーマとして期待されたが、結果的には達成されていない。しかし、その直前までは達成していることは伺える。 一方、グリーン関数評価にとって、重要なポイントとなるプローブポイントの接近は 20nm まで、実現されており、それに付随する装置の冷却機構、プローブの制御機構等の開発は、目標を達成していると判断することができる。装置的には完成の域にあり、使用に熟練し成果が伺える。この装置開発に伴う波及効果は、各種物質表面やナノ構造の評価に適用することが十分期待でき、関連分野への貢献は大きい。			